



小鹿野町

MAPLE BASE (秩父ミュージズパーク内)

MAPLE BASEは、秩父ミュージズパーク内にある秩父産のメイプルシロップの情報発信スペース、“シュガーハウス”である。メイプルシロップの本場であるカナダでは、カエデの森林の中にメイプルシロップの製造所としてシュガーハウスというものがある。2016年4月に国内初めてのシュガーハウスが秩父市郊外にお目見えた。

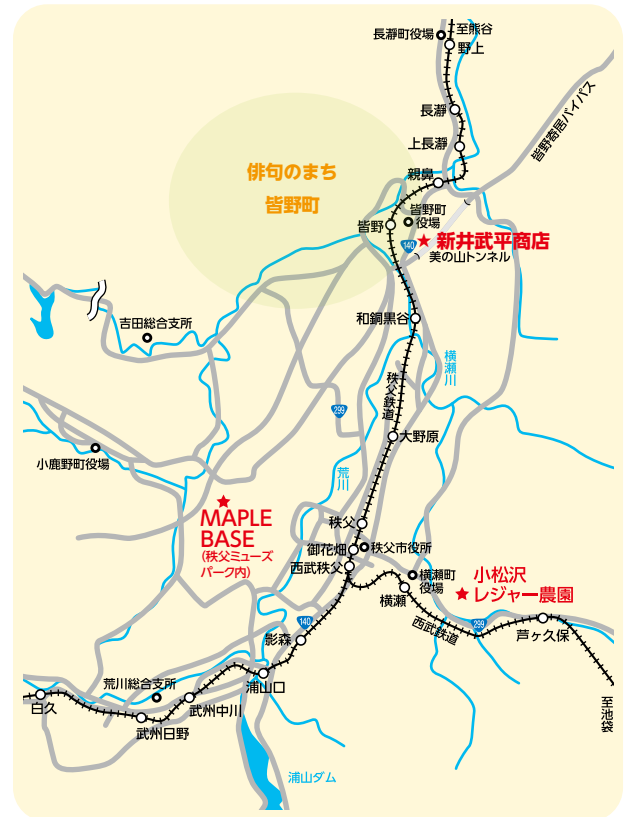


MAPLE BASEは、秩父観光土産品協同組合が整備・運営し、「TAP & SAP」がプロデュースしている。店内には、カエデの紹介や森づくりの取組みがパネル展示されている。カフェでは、秩父産のメイプルシロップを使ったスイーツやドリンクを楽しめ、お土産としてメイプルシロップを使ったサイダーなども購入でき、訪れた人たちを喜ばせている。



※秩父ミュージズパークは、秩父市と小鹿野町にまたがる豊かな自然に恵まれた長尾根丘陵に、音楽堂、野外ステージ、芸術、文化の施設がある。

秩父郊外散策



横瀬町

小松沢レジャー農園

秩父の山々に囲まれた3ヘクタールの敷地に、いちご、しいたけ、ブドウ狩りに芋掘りやマス釣り、蕎麦やうどん打ちの体験など年間を通して楽しめる体験型観光農園である。園内の千本モミジ山公園ではハイキングも楽しみ、家族連れはもとより団体旅行でも一日ゆったりと過ごせる施設である。



新緑の3町を歩く



俳句と秩父音頭のまち
皆野町

皆野町

「新井武平商店」

古くから大豆と麦の産地であった秩父地方。皆野町には、秩父味噌、ヤマブ醤油や秩父おなめの醸造元で有名な新井武平商店がある。秩父地方の特性のもと昭和4年にみそ製造業として創業。厳選した素材とそれを生かす秩父の水を使い、こだわりの味噌を醸造している。

最近では、味噌や醤油だけでなく、みそカレーやみそ煎餅、みそカステラなど関連商品を幅広く販売している。



秩父商工会議所 ちちぶ銘仙グッズ「ベスト」

秩父商工会議所では、繊維部会を中心に秩父銘仙を現代の衣服や日用品に活かした「ちちぶ銘仙グッズ」の開発に力を入れている。既にネクタイや名刺入等が販売されている。

平成28年度は、日常的に使用可能で銘仙の洗練されたデザインを生かすことが出来る秩父銘仙ベストを開発し、製品化を目指している。



「秩父音頭」の作詞をした金子伊昔紅、またその長男で俳人の金子兜太の出身地である皆野町。

もともと秩父の山里で唄い踊られていた盆踊り唄と踊りであった秩父音頭は、唄、踊りも野卑であったため神宮へ奉納できるものではなかった。金子伊昔紅は、歌詞を公募し、踊りを格調のあるものへ変えるなどの整備を昭和4年夏から進めた。その甲斐あって、昭和5年には秩父豊年踊の名での明治神宮に奉納で喝采を浴びた。その後、昭和25年には「秩父音頭」と改名し、埼玉県の代表民謡となる。

また町内には、昭和俳諧で新しい俳句の流れを作った金子兜太の句碑が点在している。金子兜太は、大正8年埼玉県小川町生まれ、小学生時代を皆野町で過ごす。旧制熊谷中学、旧制水戸高校を経て東京大学経済学部に入學した。旧制水戸高校時代から俳句の世界に入る。

昭和18年東京大学卒業後に日本銀行入行。日本銀行入行後も俳句活動を続け、昭和30年第1句集「少年」刊行、昭和31年現代俳句協会賞を受賞する。

昭和49年日本銀行退職し俳句に専念。昭和58年現代俳句協会長に就任するなど現代俳句の中心として活躍する。平成15年日本芸術院賞受賞。平成20年文化功労者。



皆野町内で見られる金子兜太の句碑